

## 地域包括ケアネットワーク No.38

### “井原市の地域包括ケアシステムの現状”

井原医師会 小田病院 小田 健司

井原市では、井原市在宅医療介護連携協議会が中心となり、H27年度から病院・診療所の医師、看護師、歯科医師、薬剤師、ケアマネージャー、保健師等、地域の医療・介護分野の多職種が参加する“在宅医療と介護連携関係者交流会”が始まった。3回/年のペースで開催され、高齢者医療の課題について、その連携策を意見交換し、在宅療養を軸とした切れ目のない医療・介護の実現を目指すことを目的としている。これまで医療・介護の多職種が直接、意見を交換する場は少なく（殆どなかった?）、他職種からは、「医師は多忙でなかなか相談しにくい、遠慮があり意見が言いにくい、顔も分からない」との声が上がっていたのが実情である。高齢者医療では、個々の病院・診療所の医療だけでは完結しない時代であり、他の施設、サービスとの連携が必須である。そのためには、継続的なケア会議、多職種連携の推進と人材育成が必要であり、地域の総合的なチーム医療・介護には、まずは顔の見える関係が重要である。継続的なケア会議のためには、多くの医師会員が参加することと、医師が他職種の意見の発言機会を保証するリーダーシップを発揮する必要がある。目標を共有し、対等な関係で会全体を把握しなければならない。ただし、憂うべきは、回を重ねるごとに、会の中心となるはずの医師会員の参加が次第に減っていることが気になることであり、会員への参加要請とともに、会の進行、内容に工夫がいるようである。

認知症対策については、平成27年12月には、地域包括支援センターに認知症地域支援推進員を配置し、平成28年8月には認知症スクリーニング検査機器（タブレット）を導入した。平成29年4月からは、認知症初期集中支援チームによって、認知症患者やその家族に対しての初期支援を包括的・集中的に行い、自立生活のサポートを支援する認知症初期集中支援推進事業がスタートする予定である。どの事業も緒に就いたばかりである。

地域包括ケアシステムでは、地域によってスピードと程度が異なる高齢化の進展を理解し、地域の実情にあったシステムが必要である。井原市でも、とかく医療と介護の連携に重点を置きがちであるが、地域包括ケアとは地域住民を生活視点でケアすることであり、地域包括ケアシステムの構築とは住民を生活視点でケアするまちづくりのことであると言われている。近年、高齢者サービスの多様化、複雑化が進み、介護保険法の改正もあり、その理解が大変であるが、医療は生活の一部であることを認識し、あらゆる医療・介護資源で地域住民を支える必要がある。そのために、異分野・異業種との交流・連携が不可欠であり、医師会員が視野を広げ、懐深くして、主導的な役割を果たしていくことが必要である。